

10:28 このようにして、エフーはバアルをイスラエルから根絶やしにした。

10:29 ただしエフーは、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪、すなわち、ベテルとダンにあった金の子牛に仕えることから離れようとはしなかった。

10:30 【主】はエフーに言われた。「あなたはわたしの目にかなったことをよくやり遂げ、アハブの家に対して、わたしが心に定めたことをことごとく行ったので、あなたの子孫は四代目まで、イスラエルの王座に就く。」

10:31 しかしエフーは、心を尽くしてイスラエルの神、【主】の律法に歩もうと心がけることをせず、イスラエルに罪を犯させたヤロブアムの罪から離れなかった。

10:32 そのころ、【主】はイスラエルを少しずつ削り始めておられた。ハザエルがイスラエルの全領土で彼らを打ち破ったのである。

10:33 すなわち、ヨルダン川の東側、ガド人、ルベン人、マナセ人のギルアデ全土、つまり、アルノン川のほとりにあるアロエルからギルアデ、バシヤンの地方にまで及んだ。

10:34 エフーについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼のすべての功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

10:35 エフーは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をサマリアに葬った。彼の子エホアハズが代わって王となった。

10:36 エフーがサマリアでイスラエルの王であった期間は二十八年であった。

であってても良いことをするなら、主はそれを良しとしてくださいます。エフーはバアルを一掃しましたが、しかし彼

はそれを正しい心からしたのではなく、自己満足や自己宣伝的にしたので、その方法はだまし討ちという間違っただけでした。主はバアルの一掃に関しては「よくやり遂げ…」とほめました、その心と信仰に関しては「心を尽くして…歩もうと心がけず、…罪から離れなかった。」と非難しておられます。

それで「イスラエルを…削り始められた」のです。自分では神のために役立ったはずだと思い込んでも、主はその心をがらんになります。また自己満足や自己宣伝、自己義認のための行動ではなく、あくまでも主ご自身のみこころに従ったのかどうかをがらんになります。そうでないなら、自分勝手に祝福があるはずだと思い込んでも、それはかなわないことです。

動機と目的が主に喜ばれているかどうか、その愛ときよさにふさわしいかどうかを、自己吟味しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

